

より良い町づく

金山町

景観が魅力の町づくり

総務教育常任委員会



「街並みづくり100年運動」のシンボルとして整備されたマルコの蔵で説明を受けました

昭和30年代から町民と行政で築き上げてきた美しい景観が魅力の金山町の最大の特徴は、住民生活と景観づくりが一体となっている点です。昭和58年に策定された「新金山町基本構想」では、主要開発事業として「街並み（景観）づくり100年運動」を基幹プロジェクトとして位置付け、推進しています。「金山町街並み景観条例」

では、町内で建築行為を行う場合は町に届け出をしなければなりません。条例に基づく助成金制度を設けており、基準に合致した建築をすれば最大80万円の助成金を支給しています。**金**山町では、先人たちが築いてきた素晴らしい財産を継承しながら、新しい財産形成に向けて「美しい風景」と調和した町づくりを目指しています。

庄内町

6次産業化の取り組み

産業建設民生常任委員会

JR余目駅前にある庄内町新産業創造館クラッセは、観光等の情報館、食のアンテナレストラン、町や周辺の加工特産品や地場産野菜などの販売所、カフェ、6次産業化工房（貸工房・共同利用加工場）、貸オフィスからなる6次産業の里づくりの拠点施設です。貸工房には給排水、電機、ガス、空調設備等が整備されており、加工特産品開発を目指す人が自



築80年の米倉庫が26年5月に庄内町新産業創造館クラッセに生まれ変わりました。（クラッセで生まれた商品説明の様子）

由に利用できます。共同利用加工場には製粉室、調理室、野菜加工室、菓子製造室、包装室などの設備があり、使用料は1時間300円から（施設により異なる）と安く設定されています。**共**同利用加工場で生まれた商品はクラッセ内で販売されています。貸オフィスは町内での起業・事業拡大を目指す企業に貸し出しています。

今回の視察研修は、議会改革の取り組みについて、金山町の町づくりについて、庄内町の6次産業化の取り組みについてをテーマに行い、本町でも参考となる取り組みが多々ありました。
視察研修で学んだ内容を今後の議会活動に生かし、より良い町づくりのためにまい進していきます。